学校番号	306

令和８年度　公民科

教科	公民	科目	倫理	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	高等学校　倫理(第一学習社)						
副教材等	最新倫理資料集（第一学習社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

持続可能な社会づくりをめざし、人間と社会との関わりに着目して現代の諸課題を考察することに加え、グローバルな視座から国際理解や国際協力のあり方を、地域的な視座からそれぞれの諸課題への対応を考察し、先人の取り組み、知恵などを踏まえ、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解することで、汎用的で実践的な公共的技能を習得する科目です。そのために、社会参画的な体験をともなう学習や、さまざまな諸課題を日常生活と関連づけて取り扱うことで、公民的な資質を身につけるとともに、社会参画の意義に気づき、社会との関わりについて考察できる能力を身につけてもらいたい。

2　学習の到達目標

人間としてのあり方生き方についての見方・考え方を三観点で働かせ，現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育むことをめざす。

・古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としてのあり方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身につけるようにする。

・自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を育む。

・人間としてのあり方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を育むとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としてのあり方生き方についての自覚を深める。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としてのあり方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身につけている。	自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりしている。	人間としてのあり方生き方に関わる事象や課題に関連して、学習上の課題を意欲的に追究しようとしたり、他者と共によりよく生きる自己の形成に向けて、多面的・多角的に考察しようとしたりしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	第1編現代に生きる自己の課題と人間としてのあり方生き方	第１章　人間の心と自己形成 １　青年期の課題と自己形成 1.人間とは何か 2.さまざまな人間の心のあり方 3.自立して生きる主体の形成	青年期の課題を踏まえ、人格、感情、認知、発達についての心理学の考え方をもとに，様々な人間の心のあり方を理解しようとしている。 a:人間の特質とは何かを理解している。人間がどのように感じ、学び、考え、行動し、発達するかに関して、心の仕組みと成り立ちを理解している。 b:自分の生きている青年期はどのような位置にあり、どのような発達課題があるのかを考えている。様々な人間の心のあり方を踏まえて、人間とは何かを思索し、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深めている。 c:様々な人間の心のあり方について、科学的に探究した各種の実験や観察、調査に基づく統計的な分析の結果を読み取ったり、対話や作文などを通して学習を深めたりしている。	・発問評価 ・定期考査	・ノート提出 ・レポート作成 ・発表	・発表
		第２章　人間の存在や価値と宗教 １　ギリシアの思想 1.哲学の形成 2.哲学の確立 3.ギリシア思想の展開	古代ギリシアの思想をもとに、様々な人間の見方や人生の捉え方を説く代表的な先哲の思想について、自己との関わりにおいて理解する。 a:古代ギリシアに見られる先哲の基本的な考え方が、理性的な人間観に支えられていることを理解している。 b:ソクラテスの「無知の知」やプラトンのイデア論はどのようなものであるか両者を比較しながら考察している。「ソクラテスのことば」から，「よく生きることこそ大切である」という彼の信念を読み取っている。 c:ソクラテスの言行やプラトン、アリストレスの思想、ヘレニズムの思想から、人生への問いや人間の存在や価値について、自己の課題と結び付けて思索している。	・発問評価 ・定期考査	・ノート提出 ・レポート作成 ・発表	・発表

		2　ユダヤ教とキリスト教 1.ユダヤ教の世界 2.イエス 3.キリスト教の発展	キリスト教をもとに、様々な人間の見方や人生の捉え方を説く代表的な先哲の思想について、自己との関わりにおいて理解している。 a:イエスの思想をユダヤ教と対比させて、神の愛・律法の内面化という視点を中心に理解している。 b:原罪や恩寵の思想に見られるキリスト教の人間観について、自己の課題と重ね合わせて思索している。 c:イエスの言行やパウロ、古代中世のキリスト教の思想から、人間をどのように捉え、どのように生きることを指し示しているかについて、多様な倫理に関する諸概念を踏まえながら自己の課題と結びつけて思索している。	・発問評価 ・定期考査	・ノート提出 ・レポート作成 ・発表	・発表
		3　イスラーム 1.イスラーム	イスラームをもとに、様々な人間の見方や人生の捉え方を説く代表的な先哲の思想について、自己との関わりにおいて理解する。 a:イスラームはどのようにして誕生したか、ムハンマドの教えにはどのような特徴があるのか、ユダヤ教やキリスト教とはどのように関係するかを理解している。 b:『クルアーン』について、日常の生活で行うことまで規定していることを読み取れている。 c:メッカの方向を調べるなどして、イスラームの基本的教義(六信・五行)を実感している。ムハンマドの言行などから、社会の中で人間がどのように生きることを指し示しているかについて、多様な倫理に関する諸概念を踏まえながら、自己の課題と結びつけて思索している。	・発問評価 ・定期考査	・ノート提出 ・レポート作成 ・発表	・発表

		4　仏教 1.インドの思想文化 2.仏教の誕生と展開	仏教をもとに、様々な人間の見方や人生の捉え方を説く代表的な先哲の思想について、自己との関わりにおいて理解する。 a：インドの人々は、どのような死生観をもっているかを理解している。ゴータマの教えは、深い思索を続ける生き方そのものであることを理解している。 b：日本になじみの深い宗教である仏教の教えを知り、仏教思想の現代的な意義はどこにあるのかを考察している。 c：仏教が人間をどのように捉えているか、どのように生きることをめざしているかについて、多様な倫理に関する諸概念を踏まえながら，自己の課題と重ね合わせて思索している。	・発問評価 ・定期考査	・ノート提出 ・レポート作成 ・発表	・発表
		5　中国の思想 1.儒家の思想 2.儒家以外の諸流派	儒教などの中国の思想をもとに、様々な人間の見方や人生の捉え方を説く代表的な先哲の思想について、自己との関わりにおいて理解している。 a：中国の人々の自然観・人生観を理解している。 b：仁や礼の言説を取り上げ、人間についての見方や、望ましい人間関係を築きながらどのように社会生活を送るかについて、自己の課題と結びつけて思索を深めている。 c：儒教が人間をどのように捉えているか、どのように生きることをめざしているかについて、多様な倫理に関する諸概念を踏まえながら自己の課題と結びつけて思索している。	・発問評価 ・定期考査	・ノート提出 ・レポート作成 ・発表	・発表

		6　宗教や芸術 1.宗教や芸術	人生における宗教や芸術のもつ意義について理解している。 a:人生に関わる課題は、古今東西の宗教や芸術によって探究されてきた課題でもあり、その解決のために宗教や芸術が誕生してきたことを理解している。 b:芸術とは何か、芸術が人生や社会に与える影響はどのようなものかについて、自らの生き方と関わらせて思索を深めている。 c:芸術家が作品に込めた問いかけなどを、社会背景を踏まえて主体的に考えている。	・発問評価 ・定期考査	・ノート提出 ・レポート作成 ・発表	・発表
		第３章　人間のあり方と社会 １　人間の尊厳 1.ルネサンス 2.宗教改革 3.人間性の探究	人間の尊厳に関する思想について、代表的な先哲の思想を通して理解している。 a:ルネサンス期の思想家やモラリストたちの思索を通して、西洋の近代人は、人間の尊厳をどこに見いだしていたのかを理解している。 b:現代社会において人間の尊厳を自覚することの意義について考察している。 c:ルネサンス期の絵画などから，ルネサンス期の人間観を、主体的に考えている。	・発問評価 ・定期考査	・ノート提出 ・レポート作成 ・発表	・発表
2		２　科学革命の時代と自然観 1.科学革命の時代 2.経験論と合理論	人間は自然をどのように捉えてきたかを理解している。 a:近代の科学は、どのような背景から生まれてきたのかを理解している。ベーコンやデカルトの著作を読み、自然は人間の手によって操作できるとする新しい自然観を理解している。 b:ベーコンやデカルトの科学的な考え方を踏まえ、科学技術の発達と自然との共生について主体的に考えている。 c:経験論と合理論の考え方の特色はどこにあるのかを、自己の課題とつなげて考察している。	・発問評価 ・定期考査	・ノート提出 ・レポート作成 ・発表	・発表

		3　自由で平等な社会の実現 1.社会契約の思想 2.人格の尊厳と自由 3.人倫と自由の実現 4.功利主義の思想 5.実証主義と進化論	社会契約の思想、人格の尊厳に関する思想、人倫の思想、功利主義の思想などについて、代表的な先哲の思想を通して理解している。 a：社会契約説は、人間をどのように捉え、どのような社会を理想としたのかを理解している。現在の政治的自由は，ヨーロッパ近代の市民革命を基礎づけた思想家たちの考えに基づくことを理解している。カントやヘーゲルの思索の内容を整理して理解している。ベンサムやミルの幸福に対する考え方の違いを理解している。 b：近代ヨーロッパの社会契約説を通して、民主社会の成り立ちを理解し、民主社会を実現した社会契約の思想について、多面的・多角的に考察している。西洋近代の思想家たちは、自由の実現についてどのように考えたのか、多面的・多角的に考察している。 c：功利主義の思想からよく生きるとはどういうことかを理解し、自分自身の生き方につなげて思索している。	・発問評価 ・定期考査	・ノート提出 ・レポート作成 ・発表	・発表
		4　人間性の回復と主体性の確立 1.社会主義の思想 2.実存主義の思想 3.プラグマティズムの思想	社会の発展に関する思想、公共性に関する思想、プラグマティズムなどについて、代表的な先哲の思想を通して理解している。 a：実存主義が追究した生き方とはどのようなものかを理解している。 b：社会主義の変遷をもとに、自由で平等な社会について考察している。主体的なあり方は、努力を伴う生き方であることを、実存主義の思想から考察している。 c：略伝や原典資料を活用して、思想家の人生をたどりながら思想内容を主体的に学んでいる。	・発問評価 ・定期考査	・ノート提出 ・レポート作成 ・発表	・発表

		第４章　現代の人間と社会をとらえる思想 １　現代の思想と人間像 1.心の深層と無意識 2.生の哲学と現象学 3.フランクフルト学派 4.構造主義・言語哲学 5.他者と偏見 6.正義と社会	現象学、言語哲学、構造主義などについて、代表的な先哲の思想を通して理解している。 a：生の哲学と現象学、構造主義・言語哲学など、現代思想の特徴を理解している。 b：現代の思想は、それまでの思想からどのような影響を受け、それらをどのように乗り越えようとしているかを考察している。 c：ロールズ、センらの思想から、私たちは何を学ぶことができるかを考察し、これからの生き方につなげようとしている。	・発問評価 ・定期考査	・ノート提出 ・レポート作成 ・発表	・発表
		２　生命への畏敬と社会参加 1.生命への畏敬とボランティア	社会参加と奉仕の意義を理解し、社会参加の中にも生きがいがあることを理解している。 a：実践された倫理を貫いた人々の生き方に対する興味・関心を高め、生命への畏敬や本当の愛とはどのようなものかを理解している。 b：様々な思想家の主張を振り返りながら、私たちの生き方はどのようなものであればよいのかを、多面的・多角的に考察している。 c：思想家のことばから、生涯をかけて自らの思想を実践した生き方をつかもうとしている。	・発問評価 ・定期考査	・ノート提出 ・レポート作成 ・発表	・発表
		第５章　国際社会に生きる日本人としての自覚 １　日本固有の思想 1.日本の風土と伝統	日本人の人間観、自然観、宗教観などと、古来の日本人の心情と考え方との関係を理解している。 a：古来の日本人の心情と考え方は、日本の風土で生活する中で育まれたことを理解している。 b：日本人の意識や心情の底流となっている物事の捉え方、望ましい対人関係を考察している。 c：古来の日本人の心情と考え方をもとに、国際社会に生きる日本人としての人間観、自然観、宗教観などの特質について，主体的に考えている。	・発問評価 ・定期考査	・ノート提出 ・レポート作成 ・発表	・発表

		2　外来思想の受容 1.日本仏教の展開 2.伝統思想の成熟 3.日本儒学の展開	日本人の人間観、自然観、宗教観などと、外来思想の受容との関係を理解する。 a:日本の思想や文化に大きな影響を与えている仏教や儒教が日本にどのように伝えられ、どのように変容していったのか、その大きな流れを理解している。法然、親鸞、一遍、栄西、道元、日蓮に関する資料を収集し、鎌倉仏教の各宗派の教義や特色を理解している。 b:日本人の価値意識と儒教との関連について理解し、正の部分、負の部分をともに検討する。 c:外来思想の受容をもとに、国際社会に生きる日本人としての人間観、自然観、宗教観などの特質について、主体的に考えている。	・発問評価 ・定期考査	・ノート提出 ・レポート作成 ・発表	・発表
		3　町人思想のめざめと庶民思想 1.国学の成立 2.庶民の思想	日本人の人間観、自然観、宗教観などと、国学や江戸時代の庶民の思想との関係を理解している。 a:義理と人情の観念、国学が提唱した人間尊重の思想、現代に流れる庶民思想は、どういうものかを理解している。 b:義理と人情、倹約と正直、勤労の倫理など、現代に流れる思想に対する興味・関心を高め、日本人の庶民思想や勤労倫理の特質はどこにあるのかを考察している。国学の思想と私たちの考え方とで、共通するところ、異なるところ、共感するところなどを考察している。 c:国学や江戸時代の庶民の思想をもとに、国際社会に生きる日本人としての人間観、自然観、宗教観などの特質について、主体的に考えている。	・発問評価 ・定期考査	・ノート提出 ・レポート作成 ・発表	・発表

		4　西洋思想との出会い 1.幕末の思想 2.明治の啓蒙思想 3.日本社会とキリスト教 4.近代的自我の確立 5.社会思想の展開 6.近代日本の思想課題	日本人の人間観、自然観、宗教観などと、西洋思想の受容との関係を理解している。 a:幕末の思想の特質や、文明開化が日本の伝統社会にどのような変化をもたらしたのかを理解している。日本の近代思想がどのように展開していったのかを理解している。 b:日本人のものの見方・考え方の中で、西洋思想の受容によって形成されたと考えられるものについて資料を収集し、国際社会に生きる日本人としての生き方・考え方を考察している。 c:日本思想のまとめとして、国際社会に生きる日本人として，これからの自分の生き方やあり方について主体的に考えている。	・発問評価 ・定期考査	・ノート提出 ・レポート作成 ・発表	・発表
3	第2編現代の諸課題と倫理	第1章　自然や科学技術にかかわる諸課題と倫理 1　生命の問題と倫理課題 1.生殖医療と遺伝子操作 2.脳死臓器移植と再生医療 3.自己決定の尊重と末期医療	生命との関わりにおいて、人間としてのあり方生き方についての見方・考え方を働かせ、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究している。 a:生殖医療と遺伝子操作、脳死臓器移植と再生医療、自己決定の尊重と末期医療について理解している。 b:生命科学や医療技術の発達を踏まえ、生命の誕生、老いや病、生と死の問題などを通して、生きることの意義を思索している。探究した結果を、「自分の考えをまとめる」「問題点を話し合う」などの方法で適切に表現している。 c:生命をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に解決しようとしている。	・発問評価 ・定期考査	・ノート提出 ・レポート作成 ・発表	・発表
		2　地球環境の問題と倫理的課題 1.地球環境問題 2.生物多様性と自然環境 3.予防原則と世代間倫理	地球環境との関わりにおいて、人間としてのあり方生き方についての見方・考え方を働かせ、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する。 a:地球環境問題、生物多様性と自然環境、予防原則と世代間倫理に	・発問評価 ・定期考査	・ノート提出 ・レポート作成 ・発表	・発表

			ついて理解している。 b：人間の生命は自然の生態系の中で植物や他の動物との相互依存関係において維持されており、共存関係が大切であることについて思索している。探究した結果を、「自分の考えをまとめる」「問題点を話し合う」などの方法で適切に表現している。 c：地球環境をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に解決しようとしている。			
		3　科学技術の進展と倫理的課題 1.高度情報通信技術の進展と私たちの生活 2.先端科学技術の利用と私たちの生活	科学技術との関わりにおいて、人間としてのあり方生き方についての見方・考え方を働かせ、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究している。 a：高度情報通信技術の進展と利用について理解している。 b：科学技術の進展を踏まえ、AIをはじめとした先端科学技術の利用と人間生活と社会のあり方について思索している。探究した結果を、「自分の考えをまとめる」「問題点を話し合う」などの方法で適切に表現している。 c：科学技術をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に解決しようとしている。	・発問評価 ・定期考査	・ノート提出 ・レポート作成 ・発表	・発表
		第２章　社会と文化にかかわる諸課題と倫理 1　福祉の向上と倫理的課題 1.多様性のある社会 2.さまざまな他者との協働 3.地域共生社会と家族	福祉について倫理的課題を見いだし、人間としてのあり方生き方についての見方・考え方を働かせ、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究している。 a：多様性のある社会、さまざまな他者との協働、地域共生社会と家族について理解している。 b：ボランティア体験など福祉に関わる多様な体験をもとに、思索を深めている。探究した結果を、「自分の考えをまとめる」「問題点を話し合う」などの方法で適切に表現している。 c：福祉をめぐって問題となっている	・発問評価 ・定期考査	・ノート提出 ・レポート作成 ・発表	・発表

			事例を収集し、主体的に解決しようとしている。			
		2　文化と宗教の影響と倫理的課題 1.文化や宗教の理解と現代世界 2.異文化理解と多文化共生	文化と宗教について倫理的課題を見いだし、人間としてのあり方生き方についての見方・考え方を働かせ、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究している。 a：文化や宗教の理解と現代世界、異文化理解と多文化共生について理解している。 b：異なる文化や宗教をもつ人々を理解し、共生に向けて思索している。探究した結果を、「自分の考えをまとめる」「問題点を話し合う」などの方法で適切に表現している。 c：文化や宗教をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に解決しようとしている。	・発問評価 ・定期考査	・ノート提出 ・レポート作成 ・発表	・発表
		3　国際平和と倫理的課題 1.持続可能な社会の形成 2.世界のなかの日本人としての生き方	国際平和について倫理的課題を見いだし、人間としてのあり方生き方についての見方・考え方を働かせ、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究している。 a：持続可能な社会の形成や世界のなかの日本人としての生き方に関する情報を調べまとめることができる。 b：平和について、人類全体の福祉の向上といった視点からも考察、構想している。探究した結果を、「自分の考えをまとめる」「問題点を話し合う」などの方法で適切に表現している。 c：文化や宗教をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に解決しようとしている。	・発問評価 ・定期考査	・ノート提出 ・レポート作成 ・発表	・発表

※　表中の観点について　a：知識・技能　b：思考・判断・表現　c：主体的に学習に取り組む態度